

令和6年2月3日

富山市PTA連絡協議会
PTA会長研修会

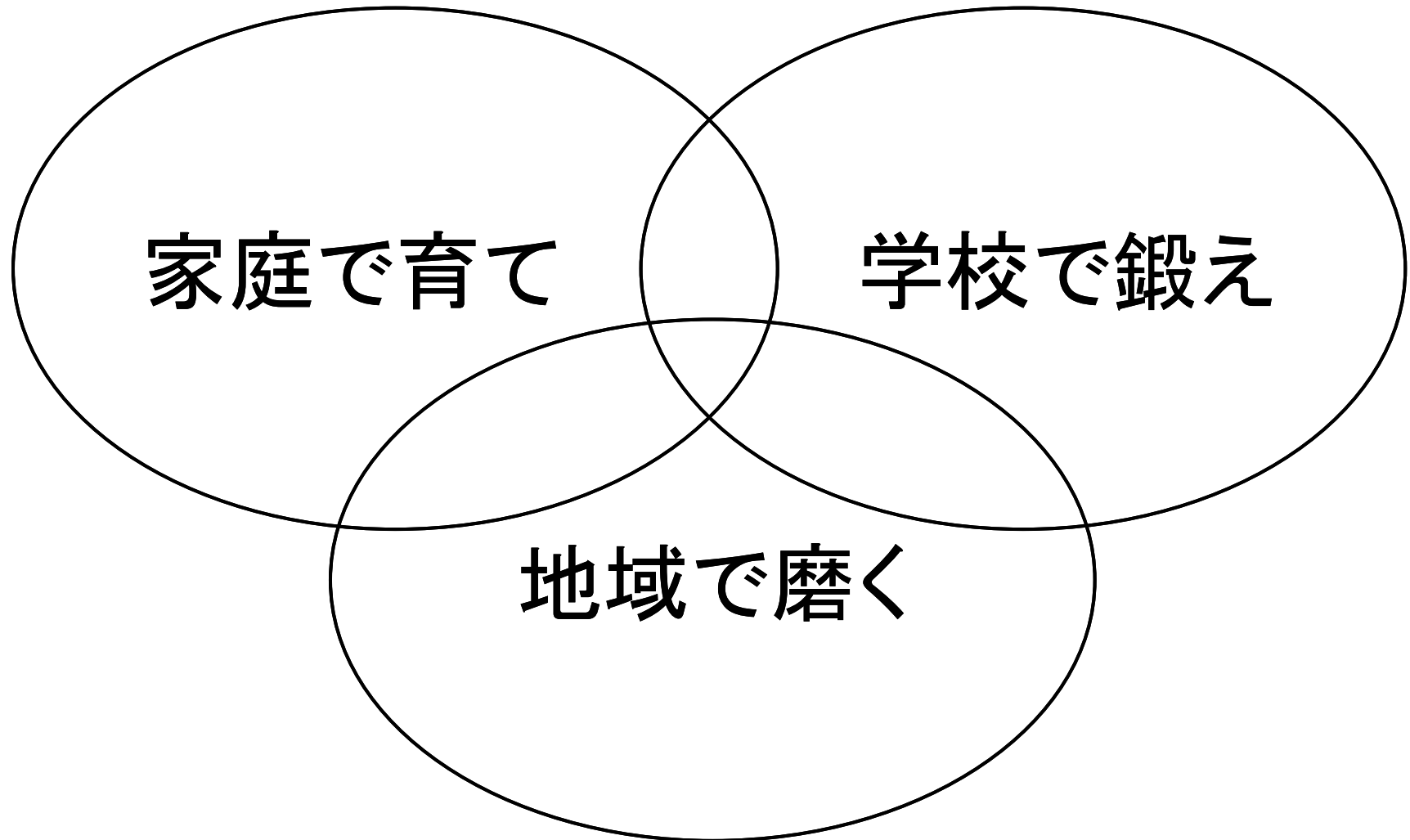
これからの教育について

富山大学教職大学院
林 誠 一

学校・家庭・地域の役割

富山県PTA連合会

子どもは



家庭で育て

学校で鍛え

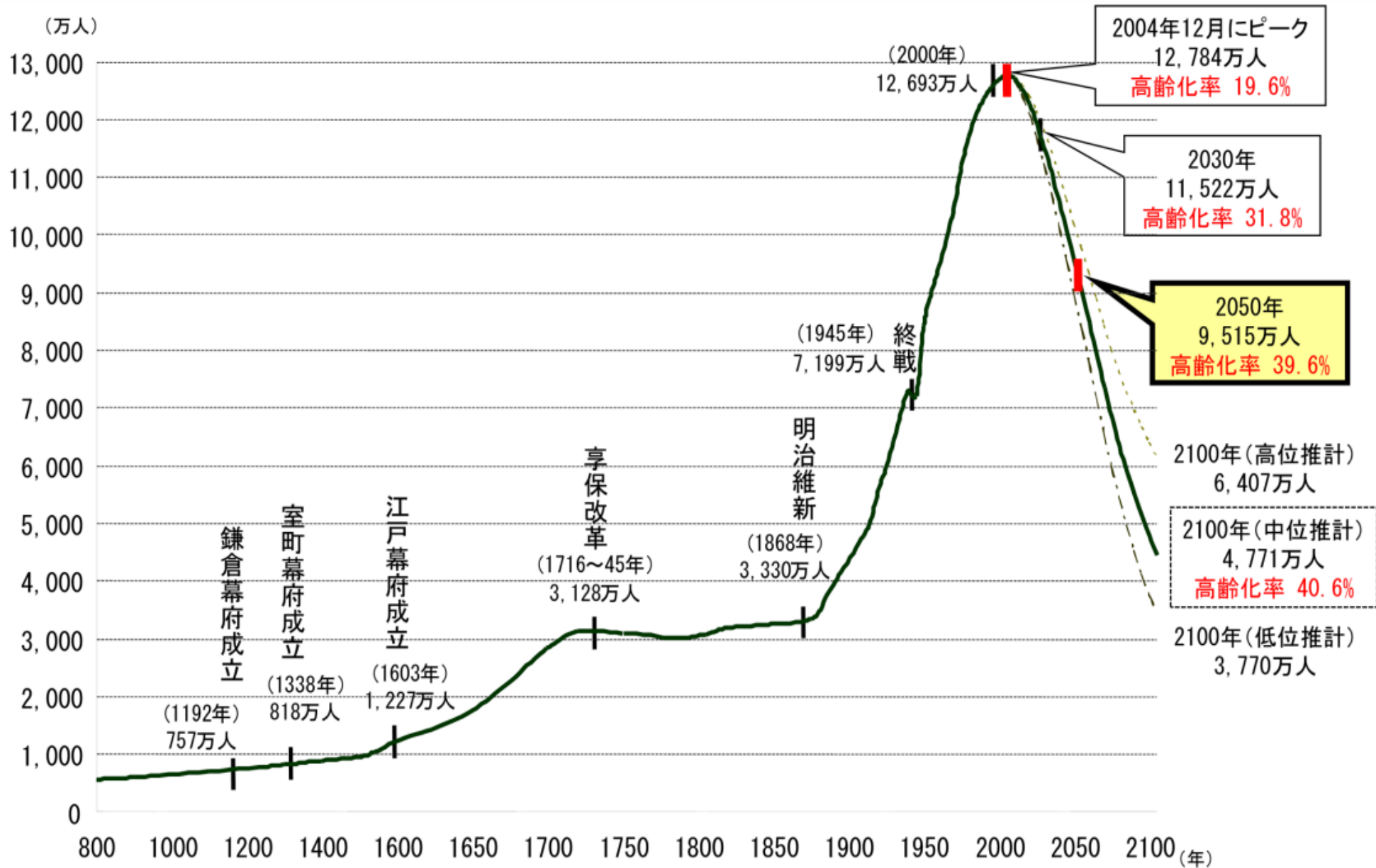
地域で磨く

改訂に込められた思い（文部科学省）

- ・学校で学んだことが、子供たちの「生きる力」となつて、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。
- ・これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。
- ・そして、明るい未来を、共に創っていきたい。

「学習指導要領」には、そうした願いが込められています。

日本の人口推移



社会背景

【急激に変化する時代】

- 社会の在り方が劇的に変わる「**Society5.0時代**」
- 新型コロナウイルス感染症の感染拡大など先行き不透明な
「**予測困難な時代**」
- 社会全体の **デジタル化・オンライン化、DX加速の必要性**

令和の日本型学校教育

子供たちに育むべき資質・能力

一人一人の児童生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが必要

【ポイント】

- ✓ これらの資質・能力を育むためには、**新学習指導要領の着実な実施**が重要
- ✓ これからの学校教育を支える基盤的なツールとして、**ICTの活用**が必要不可欠

個別最適な学び
協働的な学び

これから大切にしたいこと

- ・社会に出ると「絶対的な1つの答え」なんてほとんど存在しない
- ・「答え」がない中で、自分の頭で考えて、行動する人が人生を楽しくできる
- ・「探究」の授業は、課題を解決する力を付けるトレーニング

教育振興基本計画（令和5年6月閣議決定）

教育DXの推進・デジタル人材の育成【指標（一部抜粋）】

- 児童生徒の情報活用能力の向上
- 教師のICT活用指導力の改善
- 児童生徒一人一人の特性や理解度・進度に合わせて
課題に取り組む場面でのICT 機器の活用頻度の増加
- 児童生徒同士がやりとりする場面でのICT 機器の活用
頻度の増加
- ICT 機器を活用した授業頻度の増加

現状・課題

大学教育段階で、デジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が必要

事業内容

情報、数学等の教育を重視するカリキュラムを実施するとともに、ICTを活用した文理横断的・探究的な学びを強化する学校などに対して、そのために必要な環境整備の経費を支援する

- 支援対象：公立・私立の高等学校等
- 補助上限額：1,000万円/校（1,000校程度）
- 補助率：定額補助

成長分野の
担い手増加

デジタル等成長分野の学部
・学科への進学者の増



- ・大学段階における理工系学部・学科の増
- ・自然科学（理系）分野の学生割合5割目標
- ・デジタル人材の増

【事業スキーム】

文部科学省

補助

学校設置者

○ 求める具体の取組例

- ・情報Ⅱや数学Ⅱ・B、数学Ⅲ・C等の履修推進（遠隔授業の活用を含む）
- ・情報・数学等を重視した学科への転換、コースの設置（文理横断的な学びに重点的に取り組む新しい普通科への学科転換、コースの設置等）
- ・デジタルを活用した文理横断的・探究的な学びの実施
- ・デジタルものづくりなど、生徒の興味関心を高めるデジタル課外活動の促進
- ・高大接続の強化や多面的な高校入試の実施
- ・地方の小規模校において従来開設されていない理数系科目（数学Ⅲ等）の遠隔授業による実施
- ・専門高校において、大学等と連携したより高度な専門教科指導の実施、実践的な学びを評価する総合選抜の実施等の高大接続の強化

○ 支援対象例

ICT機器整備（ハイスペックPC、3Dプリンタ、動画・画像生成ソフト等）、遠隔授業用を含む通信機器整備、理数教育設備整備、専門高校の高度な実習設備整備、専門人材派遣等業務委託費 等

地域・家庭と学校は

子どもを支える両輪

家庭・地域の方へ

- 学校での学びが大きく変わろうとしている
 - 「先生が教える」から「子供が学ぶ」へ
 - それに伴い、家庭での学習スタイルも変化
 - 授業のことなど子どもと話す時間を！
- ICTの活用は学びを深めるため
 - 自分で考え、問題を解決する力を育むツール
 - 新しい文房具の一つ
 - 使用時間や使用環境など、ルールを決める
- 大人の意識改革

「幸せな子」を育てるのではなく、
どんな境遇に置かれても
「幸せになれる子」を育てたい